国有林野所在市町村の魅力紹介

国有林野の所在している市町村は、自然豊かで、おいしい食べ物や名産品も多くあります。その魅力をふんだんに紹介しています。

岩手県紫波郡紫波町（しわぐんしわちょう）

盛岡森林管理署

人　口	32,483人（R7.9.30現在）
面　積	238.98㎢
市町村の木	けやき　市町村の花　ききょう

紫波町は、奥羽山脈と北上山地に囲まれ、中央には北上川が悠々と流れる自然豊かなまちです。もち米・リンゴ・ブドウの生産が盛んで、日本酒の酒造り集団「南部杜氏」発祥の地という歴史もあり「酒のまち」を掲げたまちづくりが盛り上がりを見せています。

伝統的な酒造りがユネスコ無形文化遺産に登録され、日本三大杜氏のひとつ「南部杜氏」発祥の地である紫波町は、醸造家をはじめとしたお酒人材の育成、酒造りに関わる人を増やす取り組みを始めています。

母なる東根山から続く滝名川

時を遡ること江戸時代、近江商人が紫波の地を訪れて目にしたのは「豊かな杉群」と「滾々と湧き出る甘くてやわらかな水」、そして「風に揺れる黄金の稲穂」でした。日本酒造りに必要な材料がすべて揃っており、真面目で努力家な岩手の人柄もあって日本酒（当時は澄み酒）造りが始まりました。

本州北限の山田錦（酒米）

日本酒を仕込む冬季は米農家にとっては閑散期であり、東北の凍てつく寒さは酒造りにもってこいの環境でした。近江商人の村井権兵衛は、大阪池田から酒造りのプロを呼び紫波の地元農家を中心に酒造りを教えます。その技術が南部杜氏の基礎となり、今なお受け継がれ銘酒を醸し続けているのです。

南部杜氏の酒造り

そんな紫波では近年、100年以上続く日本酒蔵の他に、ワイナリー、りんごのお酒を醸すサイダリー、「その他の醸造酒」を醸すブルワリーが立ち上がり、3万3千人の小さなまちながら10か所の酒造り拠点を有する酒のまちへと進化を遂げています。

りんごのお酒、ハードサイダー

おいしい水、米、リンゴ、ブドウがお酒に醸されて日本中の皆さんに愛されています。

より詳しい
市町村の魅力はこちらから→

お問合せ先：紫波町商工観光課　Tel.019-672-2111（代表）